

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農村教育推進費

### 事業名【新】産地間連携等労働力確保定着事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 担い手対策室 経 電話番号：058-272-1111 (内4090)  
 営体強化育成係 E-mail：c11419@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,500 千円 (前年度予算額： 0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,500	0	0	0	0	0	3,500	0	0
決定額	3,500	0	0	0	0	0	3,500	0	0

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・ 農業者の高齢化、人口減少により基幹的従事者数が減少する中、農業経営体での労働力不足となっている。
- ・ 農業分野においても外国人材による労働力確保の取組が進んでいる。
- ・ 外国人材の活用や産地間による労働力の融通などの取組の拡大が必要。

### (2) 事業内容

農業現場における労働力不足を解消するため、外国人材の活用や複数の産地との連携による労働力を融通する取組の仕組みづくりを推進。

- ・ 産地の労働力ニーズ調査
- ・ 特定技能外国人等の雇用希望経営体のリスト化
- ・ 県レベルで関係機関との対策会議
- ・ 農業現場での外国人材活躍の動画等作成
- ・ 農業経営体と外国人材との交流会の開催
- ・ 農業経営体を対象とした、取組成果報告会、外国人材の雇用のための研修会の開催

(3) 県負担・補助率の考え方

国10/10

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	975	講師謝金
旅費	48	ニーズ調査等に係る旅費
需用費	217	検討会議資料、アンケート調査等
役務費	11	郵便代
委託料	1,900	外国人材動画作成費、マッチング活動、交流会、成果報告会
使用料	349	会議室使用料
合計	3,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
  - 1 (3) 外国籍の方も活躍できる社会の確立
- ・ぎふ農業・農村基本計画第6章
  - 1 (1) ①担い手の経営発展への支援強化
- ・岐阜県多文化共生推進基本方針
  - 1 (2) 地域社会で活躍できる環境づくりの推進

(2) 国・他県の状況

他県においても、国の事業を活用し、産地間の労働力リレーや他産業連携による農作業受委託の取組が実施されている。

(3) 後年度の財政負担

全額国負担である。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体は県であり、複数他産地や関係機関と連携し、県がコーディネートしてモデル的な取組みを構築するため、妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

担い手の経営の安定・発展のためには、産地の実情に応じた多様な担い手の育成・確保が必要であることから、雇用就農者数を目標に設定する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①雇用就農者 (人)	187	249 累計579	累計480	累計640	累計800	72%

### （これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>   <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>   <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p>・令和7年度当初予算にて追加</p>   <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</li> </ul>	
(評価) 3	特定技能外国人の活用が広がる中、繁忙期が異なる産地を持つ県内で、他産地等との連携による労働力を融通する取組の必要性が増している。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</li> </ul>	
(評価)	

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 農業者の高齢化や人口減少の進展により、今後さらなる労働力不足が懸念される。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 他産地他産業連携や外国人材の活用により、労働力の安定的な確保を図る。</li> </ul>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】